やまびこだより No.131

平成26年1月20日発行〈昭和51年12月1日発刊〉

中学生ボランティア新聞

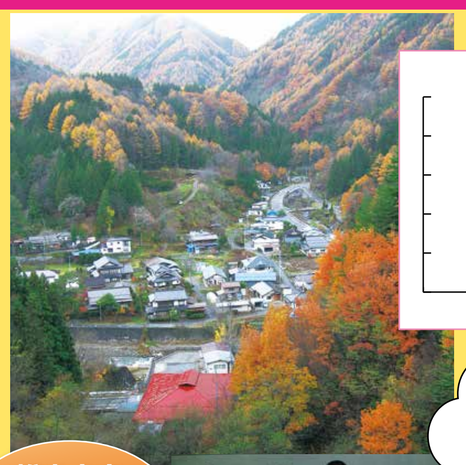
社会福祉法人 ふれあいネットワーク 長野県社会福祉協議会

特集テーマ

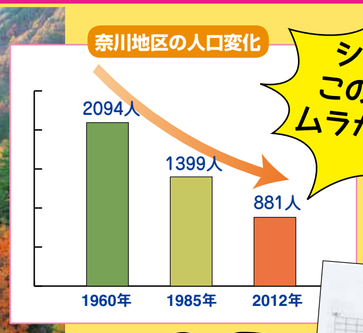
私たちの地域　いま・未来

そして僕らも考えた

STOP! 奈川（ながわ）の人口減 !!



松本市立 奈川中学校 2学年



ショック！このままではムラが消える!?

社会科の授業で日本と世界の人口を学ぶうち、自分たちの地域の人口変化を知ってびっくり！

予想しました

将来の奈川の人口ピラミッド

いずれムラがなくってしまうのは仕方がないかも…。

僕は家の仕事を継いで奈川に住み続けるんだ！

松本市奈川地区

松本市西部の山間地区。岐阜県飛騨地方と信州を結ぶ野麦街道沿いに集落が広がっています。明治時代、飛騨の少女たちが長野県の製糸工場で働くために、この道を通ってやってきました。平成17年の市町村合併までは、奈川村という独立した村でした。

地区内には高校がなく、市街地の高校まで通学するのは難しいため、中学校を卒業した生徒たちは、ほぼ全員が地区を出て暮らしています。

地域の方々への聞き取り調査をしました

奈川を離れないのはなぜ？

住み続けている人の話

教えてもらった 奈川のいいところ

奈川存続のために 僕らは考えた

どんなムラを目指せばいいだろう?

心に残ったお年寄りの言葉

「奈川は好きじゃない、まちの生活のほうがいい」と生徒たちは言います。まちにはショッピングモールがあって、娯楽施設もある。「ここは不便だ」という気持ちはわからなくはありません。でも、インタビューした地域の人の中に奈川の悪いところを語る人がいなかったことに、「えっ、なんで?」と、別の視点から地域を見直すことができた。みんなが地域の宝物なんだという地域の方からのメッセージ、ふるさとへの思いは生徒たちに伝わったのではないでしょうか。

人口減少、過疎化は難しい問題です。けれど生徒たちがこのまま奈川を離れたとしても、ふるさとの存続を真剣に考えた学びは、将来自分の生き方を形にしていくとき、きっと生かされると思っています。

若林史也先生
奈川中学校2学年担任

各校のボランティア・地域活動の紹介

大町市立 仁科台中学校

私たちの学校では、こんな活動をしています。

大町市 佐久市

中学生がイベントスタッフに

施設の納涼祭で活躍

力仕事なら任せてください !!

仁科台中学校生徒会では、役員と会員有志が、20年以上に渡って８月に行われている福祉施設（鹿島荘）の納涼祭にボランティアとして参加しています。

前日の会場作りでは、夏の日差しが照りつける中、テントの設置や七夕飾りをしました。当日の運営では、利用者の方とカラオケやゲームをして楽しみました。

利用者の方から「ありがとうね」とか、職員の方から「若い力のおかげでとても助かりました」といった感謝の言葉をいただいたことを通して、「私たちも地域を支える一員になれたな」と実感することができました。

参加した有志の一人は「前からボランティア活動に関心があったので参加しました」と志願理由を言っていました。

地域の方々に感謝の気持ちを行動で表し、信頼してもらえる活動を今後も継続していきたいと思います。そして、地域のために中学生ができることを生徒会活動の一つの柱として継続していきたいと思います。

各校のボランティア・地域活動の紹介

佐久市立 野沢中学校

地域の方々とともにアルミ缶回収

換金して購入した車いすを地域の施設に贈呈

野沢中学校では、地域の方々の協力を得てアルミ缶回収を行っています。回収したアルミ缶を換金し、車いすを購入して、近隣の福祉施設や老人ホーム、デイサービスセンター等に寄贈しています。

この活動は10年程前からずっと生徒会活動のひとつとして位置付いています。アルミ缶を処理するのは施設委員会の活動です。清掃時間に処理をします。時には袋の中にアルミ缶以外の物が入っていたり、アルミ缶が十分に洗っていなくて臭ったりすることもありますが、車いす購入のために根気強く作業を行っています。駐車スペースが十分あるので、学校付近の方はもちろん、学区外の方々の協力もいただいています。

施設の方々に学校に来ていただき、贈呈するときはとても感慨深いものがあります。また、自分たちが寄贈した車いすが各施設で役立っていることを知ると嬉しくなります。地域の方々の協力を得ながら、人のために役に立つことができ、喜んでいただけるからです。

今後は車いすだけではなく、施設の方々に喜んでいただける他の物も寄贈することを考えています。地域の方々の力を地域に還元する役割を果たしていきたいです。

あの震災を忘れないで

岩手県 大槌（おおつち）町を訪ねました

軽井沢町の小中学生を代表して、町内の３つの小学校の正副児童会長たちが、町社会福祉協議会主催の「復興支援バスツアー」に参加しました。

夏に学校で講演してくださった大槌中学校の鈴木校長先生のお話を聞いた小中学生が集まり、「私たちにできることは何だろう？」と話し合いました。

大槌町は東日本大震災で大きな被害を受けました。数多くの家が壊れ、今もたくさんの人が行方不明のままです。

★ 参加した児童の感想より ★

●ガイドの白沢さんは、災害のことを思い出してしまうのはいやなのに、がんばってガイドをしていてカッコいいと思います。

●私たちに「何ができるか」と聞きました。それは「大槌の事を忘れないでほしい」との事でした。なので私は、大槌だけでなく、震災で被害を受けた地域を忘れずに日々を過ごして行きたいです。

●心の傷を抱えたままでいる人もいます。そのような人達のためにも、東北に平穏で無事に暮らせる日が来ることを願っています。

●皆さんが元気に過ごしている姿を見ることができて、とてもホッとしました。津波や地震に負けずに、いろいろな場面に真正面から向き合ったからこそ、今の白沢さんや小学生がいると思います。

今回参加した7名は軽井沢町にいる小中学生の「現地の様子や、そこにいる人を知りたい、つながりたい！」という気持ちを届けながら、大槌小学校の皆さんと一緒に津波の避難訓練にも参加しました。参加した友達の報告をもとに、これから小中学生がみんなで協力して支援をしていきます。

18歳までの子どもがかける「子ども専用の電話」

チャイルドライン

フリーダイヤル 0120-99-7777

困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。

★ちょっといいにくいことでも、名前は言わなくていいので安心して話してください。

★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。

みんなにカードが届くよ。フリーダイヤルでかけてね！

チャイルドラインには皆さんの赤い羽根共同募金が役立てられています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう！

どこにあるかわからないひとはこちらまで！

●発行／お問い合わせ●

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

ふれあいネットワーク

〒380-0928 長野市若里7-1-7　県社会福祉総合センター内
TEL.026-226-1882　FAX.026-228-0130
電子メール　vcenter@nsyakyo.or.jp
ホームページ　http://www.nsyakyo.or.jp

公益社団法人 信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町1098　TEL.026-232-6994
ホームページ　http://www.shinkyo.or.jp/

ふっころ

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDF ファイルとしてダウンロードできます。どうぞご利用ください。

http://www.nsyakyo.or.jp

この新聞の発行には、皆さんの赤い羽根共同募金が役立てられています。